**2020年度　聖隷こども園めぐみ　自己評価　結果**

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　幼保連携型認定こども園　聖隷こども園めぐみ

法人理念

～キリスト教精神による隣人愛～

聖隷こども園めぐみ　教育・保育理念

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指します。

＊愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

＊一人ひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知る。

＊自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

＊在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てできるように支援する。

聖隷こども園めぐみでは、「保育者のための自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行ないました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の質の向上のため次年度の取り組みにつなげていきたいと思います。

|  |  |
| --- | --- |
|  | 自己評価結果・課題 |
| 第１章　総則１．教育及び保育の基本と目標２．特に配慮すべき事項（１）教育及び保育の配慮（２）健康支援（３）食育（４）特別支援教育・障害児保育 | ・「教育及び保育の基本と目標」については、良い評価となってきているが、「法令とその理解」については評価が低い。今後は法令の理解を深めるため学びの機会を増やしていくことが必要。・子どもの健康状態をより深く把握し保育にいかすよう看護師も協力しながら取り組んでいる。保護者への発信も大切にしているので今後も継続していきたい。・食育では日々の食事体験を通して、食への興味関心を高めていきたいと考えている。管理栄養士との連携がとれており、様々な発信や仕掛け作りなどもありよい環境である。・特別支援が必要な子どもの保育について、園内での定期的な共有や、保護者への適切な情報提供をする取り組みが十分にはできていない。 |
| 第２章　子どもの発達 | ・子どもが主体的に関わる環境を整えることを目標とはしつつ、実践になかなか結びついていないと課題に感じている。そのためにも子どもの発達を学びあう機会を作り、職員間で共有していきたい。 |
| 第３章　「ねらい」及び「内容」１．保育内容「健康」２．保育内容「人間関係」３．保育内容「環境」４．保育内容「言葉」５．保育内容「表現」 | ・「環境」について、施設内・外の恵まれた環境を活かし、遊びを展開している。それらの活動でどのような力が育まれていくのか、職員間で研究していくことができた。反面、保育室内の環境には課題を感じており、子どもが自ら選んで遊びを楽しめるような環境を目指したい。・「言葉」について職員一人ひとりの意識を高めていき、日々の子どもとの関わりの中で子どもが安心し、より豊かな言葉の世界を広げていけるようにする。・「表現」については毎年、評価が低い傾向にあり、今年度も同様であった。音楽に関わる表現の項目が低い。様々な表現活動ができるよう、子どもが主体的に遊べる環境整備が必要であると感じている。 |
| 第4章　低年齢児の保育実施上の配慮事項1.乳児期の保育に関する配慮事項2.満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項 | ・0歳児クラスについては定員も少なく少人数で、保育者との応答的なかかわりの中で過せている。また、子どもの健康状態の急変に対応できるよう職員間だけでなく、園医等との連携がとりやすい環境である。・満1歳以上～満3歳未満児のクラスではそれぞれの発達に合わせた保育、子どもの主体性に配慮しより丁寧な保育が必要であると感じている。 |
| 第5章　指導計画作成に当たって配慮すべき事項 | ・指導計画の作成に当たっては、職員間で話し合いを行い、子どもの個別性に配慮している。・「幼児期の終りまでに育ってほしい10の姿」に対して、さらに学びを深め指導計画作成につなげていくことが課題。 |
| 第6章　研修と自己評価 | ・外部研修の機会がコロナ禍で減ってしまったが、後半はオンライン研修等に参加することが出来た。研修での学びをもとに園内での伝達研修の機会を作り、共有を図りたい。 |
| 第7章　子育て支援 | ・在園の保護者への支援については、職員の意識は高い。日々の保護者とのやり取り等を大切にしている。反面コロナ禍で懇談会等が開催できず、残念であった。親子ひろばについても開催できない月もあったが、継続した利用者も出始め地域への発信の必要性を感じている。 |
| 全体として開園から4年目に入り、園の生活も少しずつ落ち着いてきており、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人ひとりが安心して過ごせるよう、子どもとの関わりを大切にしたいという、職員の意識は高い。しかし、保育の専門性をより高め、具体的な教育・保育内容に結び付けていく必要性を感じる。また、コロナ禍という初めての状況の中で、今まで以上に感染予防に園全体で取り組んでいった。改めて防災、危機管理体制について考えさせられることになった。連携機関と情報共有しながら、対応していく必要性を感じる。 園の強み・弱みを明確にしながら、今後さらに保育の質を向上させていくよう取り組みを進めたい。 |